

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 24日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏名	鷺谷 浩輔
研究課題	ラグビーのスクラム基本動作の言語化				
研究キーワード	ラグビー スクラム コー チング 質的研究	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

【研究成果の概要】

現在、U20 日本代表チームにコーチとして帯同し、今まで得た知見を元に現場のコーチングに生かしている。その際に選手や他のコーチから様々なフィードバックをもらい、監督のロブペニー氏ともディスカッションしながら、自身の立てた仮説に対する検証を行う環境が整っている。この環境が今年の7月まで継続するので、その間に実践と検証を積み重ねていきたい。また、例年に引き続き、本学グラウンドにて、本学ラグビー部員を被験者とし、スクラム動作の撮影及び分析を行っている。また、プロラグビーチームの浦安Dロックスや日野自動車レッドドルフィンズの協力もあり、プロラグビー選手やプロコーチからの助言も多く頂くことができた。分析の際、研究協力者である NEC の森田氏や名古屋学院大学の河合氏らと連携しながら、多角的な視点で分析を行うことができています。また、昨年度から正式にプロスクラムコーチである齋藤氏を招き入れ、NTTの研究開発センターの研究者ともタッグを組むことができた。NTTが開発した測定機器を用いながら、全国各地の高校にてデータを収集している。スクラムの言語化を研究として取り組んでいるのが、日本で唯一我々だけという特異性もあり、例年に引き続き、高校・大学・社会人ラグビーチームからの講演等の依頼も多く、zoomセッションにて多くのチームとビジョンを共有できている。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

「7人制ラグビーにおける防御戦術に関する研究-15人制ラグビーとの比較を通しての検討-」 廣瀬恒平, 田中大雄, 千葉剛, 嶋崎達也, 鷺谷浩輔, 中西貴則、共著、千葉県体育学研究、2022年10月

【著書・論文（査読なし）】

特になし

【学会発表等】

「大学ラグビー選手における脳振盪の症状認識と報告行動の理由」 鈴木啓太, 永井智, 西田智, 鷺谷浩輔, 竹村雅裕、共同発表、第11回日本アスレティックトレーニング学会学術大会、2022年7月

3. 主な経費

ユース（高校生）世代の調査により、全国トップレベルの高校へ出向いた際に旅費交通費がかかっている。その他、書籍やPC関連の消耗品費等に充てている。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の活動】

- ・ U20 日本代表 FW コーチ
- ・ 関東大学ラグビーフットボール連盟 理事
- ・ 千葉県ラグビーフットボール協会 大学部門 副委員長